

【施設状況】

グループ名称	もんぜんぷら座こども広場（じゃん・けん・ぽん）							
指定管理者名	02004	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト						
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副				
構成施設	もんぜんぷら座こども広場（じゃん・けん・ぽん）							
施設分類	06	保健福祉2型	施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	床面積860㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、おひるね室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ 受付、事務室							
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進に資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。							
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根ざした施設となることを目指す。							
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てに関する情報提供 ④あそびに関する指導及び助言 ⑤その他子育ての支援に関すること							

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	協定、実施計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	協定、実施計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	協定、計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト	指定回数	3 回	
指定期間	平成24年4月1日 ~ 平成29年3月31日	5年	管理運営開始日 平成18年4月1日	
指定管理者の健全性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。			評価 4
	特記事項 (問題等があった場合に、その内容等を記入)			

2 施設の有効活用

No. 48

		利用区分等	単位	H23	H24	H25	H26	対前年比	評価
施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)	入場者		人	61,544	54,570	52,408	47,990	92%	4
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
		(特記事項)							
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	<ul style="list-style-type: none"> 子育て中の親とこどもの交流に関する事業 子育てに関する相談 子育てグループ等の育成 子育てに関する情報の提供 あそびに関する指導及び助言 子育て情報誌の発行 子育て講座、イベントの開催 その他子育て支援に関する業務 							
	自主事業	<p>・「子育て中のお母さんのためのリフレッシュ講座」日頃、子どもの世話に追われている母親を対象に、託児付きの講座を開催し、新たな気持ちで子どもに向かうことができるよう、リフレッシュできる時間を提供する。</p>			<p>・中学生以上の生徒・学生を対象に「じゃん・けん・ぼん夏休みボランティア体験プログラム」を実施し、乳幼児とふれあう機会を通し、将来を見通したライフプランができるよう支援する。</p>				
サービス維持・向上の取組み(広報等)		<p>・ホームページでの詳しい案内、ブログで毎日の活動を紹介。 ・子ども広場 子育て情報誌「じゃんけんぼん」の発行 ・週刊長野への情報提供 ・じゃん・けん・ぼん便り「子どもも親もいきいき」として月1回子育て・子育て支援の情報を提供 ・手洗いの徹底や、施設の清掃、遊具の消毒により、感染症予防対策を行っている。施設の点検・修繕により、常日頃から子育て中の親子が安心して利用できる環境を整えている。</p>							

3 利用者評価

No. 48

		区分	内容	評価
利用者評価	利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	その他	5
		(2) 調査、会議等の内容 利用者会議等・・・サークル活動責任者会議（H17.2.24） 聞き取り・・・終了後一人ひとりから感想・要望等を把握 ・ねんねの会・・・2ヵ月から寝返り前の乳児と母親の会 ・NP講座・・・親が自分の長所に気づき、子どもを育てるための前向きな方法を体験を通して学ぶ講座 ・リフレッシュ講座・・・保護者の要望を聞き託児付きで講座を行い、リフレッシュの機会とする ・利用者の声コーナー・・・投書箱により利用者の声を把握		
利用者からの評価・苦情等	利用者評価	(3) 調査、会議等の結果 利用者会議・・・子ども達を遊ばせながら母親同士ゆっくり話ができる場所でありがたい。 スタッフが笑顔で話しかけやすい、話を聞いてもらってうれしい。 ねんねの会等・・・出産以来、子どもと初めての外出で同じ月齢の子のお母さんたちと話せてよかった。安心した。 転居してきたが、ねんねの会に出会えてよかった。 頑張っているお母さんの姿を見て、自分もがんばらなければ！と思った。 等、実施した講座の内容とともに、講座等も満足している声が多い。		5
		(1) 良好とする評価 ・安全な環境、広いスペース、おもちゃが豊富、使用料無料、と答えている人が多い。 ・スタッフに「話しかけられてうれしい」、「話を聞いてもらえてうれしかった」「見守ってくれてありがたい」との意見があり、スタッフの対応に満足している声が多い。 (2) 苦情・改善等の要望事項 ・駐車場を無料にしてほしい。 ・今後の要望としては通院、買い物等短時間の「託児」や、「託児付き講座」の要望が多かった。 ・感染症予防の観点から入館したらすぐ手洗いをお願いしているが、手洗いの場所が奥であり、入口への設置の要望が多い。 <<対応措置>> ・駐車場を無料化、または割引券の時間延長（3時間まで）にしてほしいことを保育課に伝えた。 ・要望の多い「託児」については、「託児付き講座」の充実やファミリー・サポート・センターの活用も勧めた。 ・施設の構造上、不可能の事を説明し理解を図った。		

事業収支 (単位：円)	指定管理者収支（平成26年度）				市の収支				評価		
	年度計画額		収支実績額		平成26年度決算		平成25年度決算（前年度）				
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額			
	収入	利用料金 78,000 指定管理料 14,915,000 委託料 販売収入等 その他収入 320,000 計 15,313,000	利用料金 15,100 指定管理料 14,915,000 委託料 販売収入等 その他収入 10,905 計 14,941,005	歳入	国・県補助金 6,114,000 計 6,114,000	国・県補助金 7,204,000 計 7,204,000	支出	人件費 11,275,000 設備管理費 134,000 備品購入費 222,000 修繕費 103,000 光熱水費 事業費 2,082,000 事務経費 579,000 本社経費 918,000 その他 918,000 計 15,313,000		人件費 10,530,132 設備管理費 105,255 備品購入費 599,163 修繕費 71,712 事業費 1,484,322 事務経費 1,118,829 本社経費 964,746 その他 964,746 計 14,874,159	歳出
自主事業	収入 支出 自主事業損益 0	収入 88,200 支出 79,300 自主事業損益 8,900				損益 0	75,746	差引	-8,801,000	-13,756,000	
人件費比率【人件費(賃金等)／平成25年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)									70.8%		
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由											

5 管理運営全般 ※すべて で、「3」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか 配置実績 (うち市内雇用職員数) 運営責任者1人(1)、チーフスタッフ4人(4)、スタッフ9人(9)、合計14人(14)	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか		
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか		
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか		
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 備品はI種、II種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか		
セルフモニタリング等	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか		

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☑	4	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護 1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	☑		
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		☑
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		☑
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	☑		
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか			

7 地域連携

地域連携	評価			
<p>地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。また、市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。</p>	4			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>協定内容・指定管理者提案</th> <th>追加された内容、未実施の内容及びその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の組織へ参画連携し、市街活性化につながるようイベント、行事へ参加。 ・わんぱく散髪講座、リフレッシュ講座等地元商店街の方々との共催イベントを積極的に行う。 ・シニアアクティブルーム（高齢者学級）と連携し、活動（折り紙教室、手話で歌おう会）等世代間交流を行う。 ・ボランティアの育成や活動の場の提供を積極的に行い、地域の方々と共に運営を行う。 ・地域子育て支援センターとの交流（おたより等の情報交換） ・信州大学教育学部、清泉女子短期大学、長野県短期大学等と研究・実習の場として連携し、その研究内容等広場運営に活用する。 ・長野県短期大学幼児教育学科立浪ゼミとは、もちっこ広場を共催で行う。 ・中学校、高等学校の職場体験、インターシップ等の受け入れ。 ・長野看護専門学校臨地実習を受け入れ </td> <td> <p><追加連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・善光寺花回廊、七夕まつり、灯明まつり等への参加 ・第三地区子育て広場「サンサン広場」の立ち上げ支援。 ・中学生以上の生徒・学生を対象に「じゃん・けん・ぼんでボランティア」を開催 ・公民館や幼稚園、シルバー人材センターなどへの出前講座 </td> </tr> </tbody> </table>		協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の組織へ参画連携し、市街活性化につながるようイベント、行事へ参加。 ・わんぱく散髪講座、リフレッシュ講座等地元商店街の方々との共催イベントを積極的に行う。 ・シニアアクティブルーム（高齢者学級）と連携し、活動（折り紙教室、手話で歌おう会）等世代間交流を行う。 ・ボランティアの育成や活動の場の提供を積極的に行い、地域の方々と共に運営を行う。 ・地域子育て支援センターとの交流（おたより等の情報交換） ・信州大学教育学部、清泉女子短期大学、長野県短期大学等と研究・実習の場として連携し、その研究内容等広場運営に活用する。 ・長野県短期大学幼児教育学科立浪ゼミとは、もちっこ広場を共催で行う。 ・中学校、高等学校の職場体験、インターシップ等の受け入れ。 ・長野看護専門学校臨地実習を受け入れ
協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の組織へ参画連携し、市街活性化につながるようイベント、行事へ参加。 ・わんぱく散髪講座、リフレッシュ講座等地元商店街の方々との共催イベントを積極的に行う。 ・シニアアクティブルーム（高齢者学級）と連携し、活動（折り紙教室、手話で歌おう会）等世代間交流を行う。 ・ボランティアの育成や活動の場の提供を積極的に行い、地域の方々と共に運営を行う。 ・地域子育て支援センターとの交流（おたより等の情報交換） ・信州大学教育学部、清泉女子短期大学、長野県短期大学等と研究・実習の場として連携し、その研究内容等広場運営に活用する。 ・長野県短期大学幼児教育学科立浪ゼミとは、もちっこ広場を共催で行う。 ・中学校、高等学校の職場体験、インターシップ等の受け入れ。 ・長野看護専門学校臨地実習を受け入れ 	<p><追加連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・善光寺花回廊、七夕まつり、灯明まつり等への参加 ・第三地区子育て広場「サンサン広場」の立ち上げ支援。 ・中学生以上の生徒・学生を対象に「じゃん・けん・ぼんでボランティア」を開催 ・公民館や幼稚園、シルバー人材センターなどへの出前講座 			

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	4	8	<p>総合評価</p> <p>指定管理者の健全性</p> <p>施設の有効活用</p> <p>利用者評価</p> <p>事業収支</p> <p>管理運営全般</p> <p>危機管理体制</p> <p>地域連携</p> <p>----- 基準値</p>
施設の有効活用	4	16	
利用者評価	5	20	
事業収支	4	8	
管理運営全般	4	8	
危機管理体制	4	16	
地域連携	4	8	
合計得点			

評価理由
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の運営は、経験と実績のある医師会が法人の理事として関わり、現場における有資格者の確保もされている。 ・常に子育て世代の実情を踏まえ、市指定事業に加え自主事業として「子育て中のお母さんのためのリフレッシュ講座」を行い大変好評である。また、「ノーバディーズパーフェクト講座（子育て中の親の悩みや助け合いの支援）」が定着し、講座を修了した利用者が託児ボランティアや子育てグループの運営に関わるなど、親の「エンパワメント（自己決定力）」を高めている。 ・利用者がスタッフの対応に満足しており、活動や講座等好評である。 ・収支についても適切に運営されている。 ・専門性を備えた職員、有資格者が配置され、講座に生かされている。 ・「お助けリボン」（複数お子さんを連れてお母さんが、授乳などで一人のお子さんを見ることができない場合に、スタッフに見てもらうときに子どもにリボンを付ける。リボンを付けた子どもはスタッフだけでなく、周りの親にも気を配っていただくようにしている。）を活用した事故予防を行っている。 ・シニアアクティブルーム（高齢者学級）や地域大学・中学校等教育機関との連携、ボランティアの積極的な受け入れを行っている。また、地域の組織へ参画連携し、市活性化につながるよう行事に参加している。

取組み・改善案等（施設所管課）	前年度からの課題	改善状況	改善案等（改善されていない場合）
	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児からの継続した支援 ・広場に出て来られない保護者への支援 ・当事者同士の育ちあい支援（サークル、グループ支援） 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児コーナーを作り、安心して遊べる場の提供やコアキッズ体操等発達にあった活動の提供。 ・訪問型子育て支援事業（ホームスタート）を開始した。 ・ねんねの会、NP講座を実施し、グループ作り等の支援を行った。また、ボランティアとして活動ができる場の提供 	

次年度の目標・ 取組み等 (施設所管課)	<ul style="list-style-type: none">・子育て中の親子の遊びと交流の場として、ボランティアの受け入れや教育機関との連携により、一層安心して利用できる施設とする。・また、「ノーバディーズパーフェクト講座（子育て中の親の悩みや助け合いの支援）」のような親の「エンパワメント（自己決定力）」を高める講座を継続して行う。・今後も広報やPRなどに努めて、施設利用者の増加を図っていただくこと。
----------------------------	--

指定管理者自己評価

A

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

- ・利用者である乳幼児にとって快適な空間の提供を行うため、信州大学教育学部山岸明浩教授、学生水上華香奈子さんと温熱環境の実態を把握し、乳幼児が活動する空間の温熱環境の課題点を明らかにし、今後の施設のあり方について考察した。
- ・母親同士の育ちあいのグループづくりを目的としたNP（ノーバディーズパーフェクト）講座は託児付きにし、講座に集中できる機会となり好評である。
- ・自然との触れ合いのできない施設の欠点を補うためと「歩育」をめざし、城山公園でお外でじゃん・けん・ぼん、街路樹を見ながら権堂広場まで親子で歩く「てくてくお散歩」を取り入れ喜ばれた。
- ・妊娠期から切れ目のない支援を願い、マタニティセミナーに加え、プレネイタルミーティング（妊娠中から小児科医と話をする）を毎月行い、出産後の施設利用につながっている。
- ・内閣府主催の「市町村子ども・子育て支援事業計画勉強会」を開催し、平成27年度4月から施行する子ども・子育て支援新制度についての理解を図った。

② 業務の効率化に対する取組み

- ・常勤スタッフが少なく、パート職員が多く意思疎通がなかなか難しい。業務のマニュアル化やシステム化の見直し等随時行っている。
- ・広場の蛍光灯の削減・・・施設内の蛍光管を1割ぐらい外し、もんぜんぶら座の電気の消費量減に努めた。
- ・講座の講師に法人所属の専門家等を活用したり、スタッフがわらべうたベビーマッサージ指導者（7人）の資格を取り、絵本セラピスト（2人）、公認コアキッズ体操普及員（4人）、NP認定ファシリテーター（9人）とともに活用し、謝金等を抑制した。またスタッフのネットワーク等でミニコンサートを開催する等ボランティアとの連携に心がけた（年間201回）。
- ・保険契約の更新にあたり、引き続き、全国的な子育て支援団体である「つどいの広場連絡協議会」が行っている「ひろば保険」に加入し、経費削減に努めた。
- ・内部的に必要な印刷物、館内でのお知らせの掲示物などは裏紙を使う、遊具等も空き箱、布切れ等を活用し手作りに心がけるなど、日常生活において経費削減に努めた。

③ その他

- ・教育機関と連携し、利用者の社会参加や事業内容の充実を図った。
- 文化学園長野専門学校との連携：ボランティア授業の一環として、1年生22名が「じゃん・けん・ぼんでボランティア」に参加し、乳幼児や保護者とふれあう機会を通し、将来を見通したライフプランができるよう支援した。
- 長野看護専門学校現地実習の受け入れ：母性保健学講座の現地実習生を受け入れ、終了後専門的視点から見た親子の関係等意見交換を行い事業の運営に生かした。
- ・妊娠期からの連続した子育て支援として行っている休日マタニティセミナー（長野市保健所との協働事業）のグループワークでは、遊びに来ている父親・母親に産後・育児等の話ををしてもらおうがセミナーの出席者の場合も多く、資源の循環の場ともなっている。また、新生児、乳児期の病気や予防接種等についての不安も多いので、プレネイタルミーティングを開催し、妊娠中から小児科医と話をする場を設けた。（10回）

(2) 指定管理者業務実施上の課題

- ・利用者数が、施設の有効活用の指標として挙げられているが、少子化また地域に子育て支援センター等が増えている現在、拠点型子ども広場のあり方が課題である。待つ支援でなく子育て支援施設のない地域に向きひろ場を開催すること等も考えられる。
- ・日々より質の高いサービスの提供に心掛け、利用者が安心して遊べる安全な場所の提供のため、スタッフの配置を日中多くしているので、財政的に厳しく、専門性の高い職員の正規雇用が困難である。
- ・駐車場から遠くまた有料であるといった施設の制約の中で、いかに特色のあるサービスが提供できるかが課題である。
- ・子どもが遊び慣れた身近な場所での託児が求められている。保育所の一時保育とは競合しない短時間の託児が課題である。
- ・運営委託、指定管理者として12年を経過し、備品等（おむつ台、授乳用のいす等）の経年劣化が激しく、部品が廃盤で修理は不可能であり予算内での買い替えが課題である。

(3) 次年度以降の取組み

- ・年齢別利用状況を見ると、0歳児が一番多く、1歳児、2歳児と減少していく。ねんねの会後の支援も求められている。継続的な利用につながるよう利用者の求めている利用形態や環境等を解明し利用者増につなげる。
- ・広場に出て来られない保護者への支援の充実。
- ・子育ての不安を軽減し、親子が楽しく過ごせるよう妊娠期から継続した支援を行う。
- ・ねんねの会やNP講座を通して仲間づくりができ、当事者同士の育ち合いや、支援を受けていた人が地域で支援者となる等支援の循環がみられる状況であるので育成支援を続けたい。
- ・信州大学教育学部山岸教授と実施した「温熱環境に関する研究」で、じゃん・けん・ぼんでは、垂直方向のみでなく水平方向での気温差も生じ、室内の気温分布解消が課題である。

【指定管理者自己評価基準】

A：計画や目標を上回る、B：計画や目標をやや上回る、C：計画や目標どおり、D：計画や目標をやや下回る、E：計画や目標を下回る